

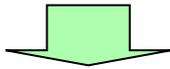
豊後高田市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年5月～24年3月)

【中心市街地を巡る状況】

○国東半島周辺の交通結節点・商業拠点の役割喪失 (S40宇佐参宮鉄道の廃止・モータリゼーションの進展)

○H9からH17にかけて、中心商店街から大型店、金融機関の撤退・移転。大型店の郊外進出。

○“昭和”の姿のまま残された商店街



○中心市街地の小売商業年間販売額はH9からH16にかけて34%減少。近年は飲食店数や一部商店街の販売額の増加により、下げ止まりの傾向にある。

○観光客数はH17で25万人を超えるものの、近年は頭打ちの傾向にあり、今後衰退の危険がある。

○滞在時間が短い観光地であるため、観光消費額の増加を図るには、滞在時間の延長が必要。

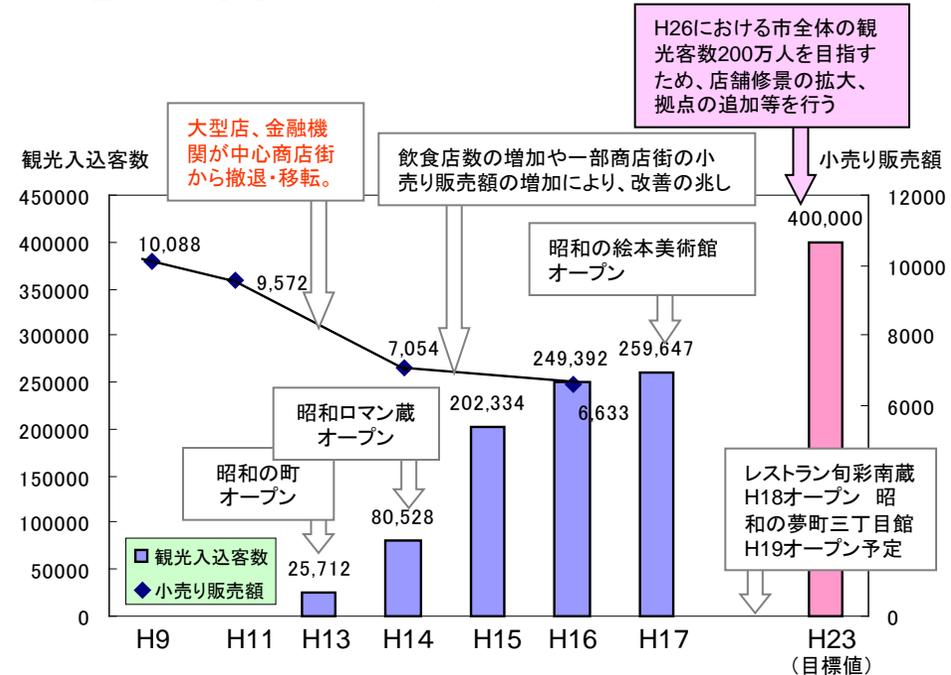
○これまで取組みが不十分だった玉津地区については小売店舗数、従業員数等、依然として衰退が続く。明確な戦略が必要。

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H23)
いとおいしく懐かしいおまち	年間観光入込客数	259,647人(H17)	400,000人
	観光客滞在時間*	26%(H17)	36%
高齢者が楽しいおまち	高齢者交流施設入込客数	—(H18)	3,600人

*滞在時間が2時間を超える割合 アンケート調査(個人客)

(観光入込客数の動向と数値目標)



桂川で分断された昭和の町全体の発展を目指し、空きビルを活用した観光施設の増設や高齢者交流施設の整備、桂橋の修復等により滞在時間の延長を促し、全体として持続発展可能なまちづくりを推進する。

豊後高田市中心市街地活性化基本計画の事業概要

昭和の町の更なる魅力アップ



○ロマン蔵北蔵において、板塀で囲まれた駄菓子屋を再現し、昭和30年代のノスタルジックな雰囲気を感じられるゾーンなどの整備(H19. 4. 29(昭和の日)オープン)

○中央商店街駐車場を自家用車の専用駐車場とするため、隣接地に大型バスの専用駐車場を整備

○昔ながらの素材の趣をいかした外観や看板に改修するなど、「昭和30年代」をテーマとした昭和の街並み景観整備

○空きビルや遊休地を活用し、昭和の暮らし体験広場等を再現することにより、昭和の町の更なる魅力を図る

(修景前)

(修景後)



(現況写真)

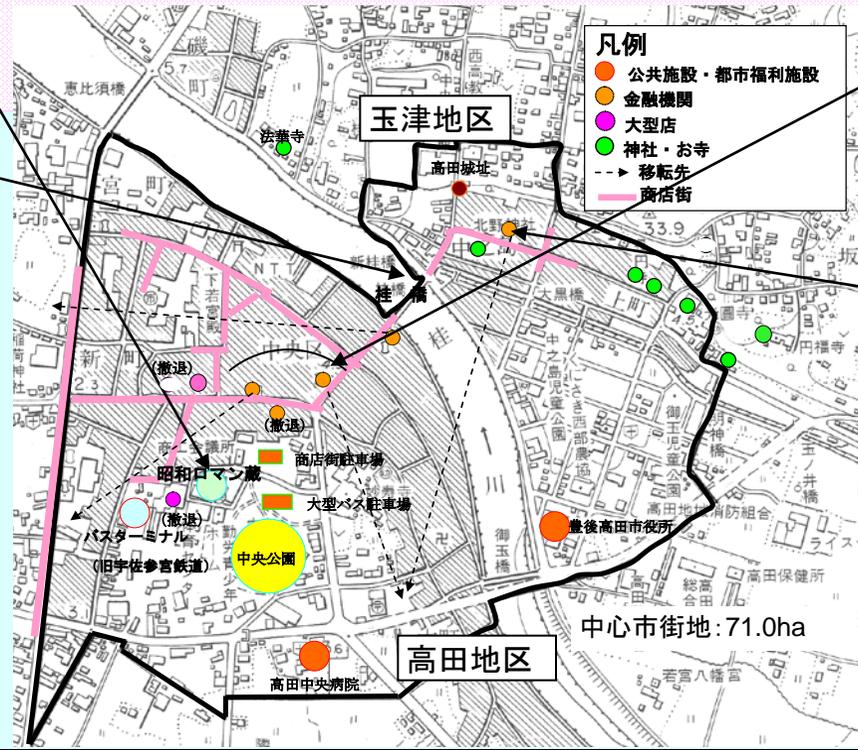
○観光客の受け入れ体制の充実を図るため、店主のスキルアップ等の人材育成を行う(地域再生計画)

“わたってみたい”おまち

○川で分断された高田地区と玉津地区を結ぶ桂橋の老朽化に伴い、「昭和の町」にマッチした橋へと整備・美装化



(現況写真)



高齢者が楽しいおまち

○商店街の空きビルを活用して、軽体操ができる元気アップ教室や作品展示室などの高齢者の交流施設を整備し、玉津地区におけるまちづくりの拠点施設として整備

○史跡・お寺めぐりスタンプラリーやそば打ち体験イベントなどを通じて、玉津地区活性化をスタート

